

大崎住民訴訟を支援する会ニュー入第34号(2024年7月)

事務局 電話番号：070-2010-3777 〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

事務局アドレス osaki.shien@gmail.com <https://www.facebook.com/osaki.shien>

大崎住民訴訟控訴審口頭弁論、7月16日に

2024年6月6日予定の控訴審判決言い渡し小林久起裁判長急逝(4月20日)により取り消され、口頭弁論が7月16日(火)15時半に行われることになりました。多くの傍聴者が参加されるよう、仲間の皆さんに声掛けをお願いします。(支援する会事務局＝広幡)

仙南広域組合、放射能汚染廃棄物焼却処分終了を発表

仙南広域行政事務組合は5月16日で農林系放射能汚染廃棄物の焼却処分が終了したと発表しました。試験焼却から7年で、焼却量は4800トン(当初予定は7240トン)。焼却灰は固化して白石市の処分場に埋め立てたとしています。

焼却処分終了を前にして、「放射能汚染廃棄物の焼却に反対する仙南の会」は5月13日事務組合に対して「①本年8月以降に事業の説明会開催、②焼却処理事業の検証とその検証結果を住民に報告すること、③焼却灰の管理の継続と強化」を求め、申し入れを行いました。

仙南の会では、焼却処分終了の報告を受け、当初の予定量と実際の焼却量に大きな違いがあり、未焼却分の再焼却はないか、県外焼却に道を開くようなことはないか、追及する予定です。白石市の最終処分場は2019年の大雨で一部破損したことがあり、固化された焼却灰の長期管理が大丈夫なのか心配です。

5月15日加美町の放射能汚染廃棄物保管場所の見学会を開催



放射能汚染廃棄物「一斉焼却」に反対する宮城県民連絡会は、「大崎耕土を放射能汚染させない連絡会」の仲間の案内で、加美町の田代放牧場に保管されている町内の「放射能汚染廃棄物(牧草)」の保管状況の監視活動を5月15日実施しました。



船形連峰を背景にフレコンバックに詰められた「放射能汚染廃棄物」1,400トンが野積みされており、保管場所は立ち入り禁止で中には入れませんでしたが、望遠レンズで眺めると、防護服を着た作業員が「県外搬出」に向けての点検なのか、作業している姿が見えました。

加美町は町議会で5月より県外搬出し焼却処分することを公表しています。大崎市・美里町に次ぐ三か所目の県外焼却自治体となりました。涌谷町も県外焼却を実施すると公表しており、栗原市長も県外焼却を今後の選択肢とすることを否定していません。「県外焼却」は「放射能汚染の再拡大」です。早急に中止させる必要があります。

7月11日仙台市民会議が避難計画を仙台市に問う

脱原発仙台市民会議は6月13日、秋保町石神町内会と
合同で、仙台市財政局に対して「6月の東北電力株主総会
で、原発に依存しない株主提案に賛成する」よう、要望書
を提出しました。仙台市財政課・防災計画課・環境局脱炭
素政策課の3部門が対応し、7月11日(木)午前10時半、
市役所本庁舎2階会議室(北西)で、回答のために再懇談す
るとの約束をしました。



仙台市民会議の事務局長広幡は「1月1日の能登半島地
震では、外部への避難もままならず、屋内待機も困難な事態が発生している。内陸直下型地震にどう対応する
のか、国や県の検討内容など、報告を期待したい」と、7月11日の再懇談での防災計画課の報告に具体的な
要望を添えました。写真は財政課長に要望書を手渡す秋保町石神町内会大場拓俊会長と、市会議員高村直也さ
ん・大沼えつこさん。

仙台市長 郡 和子 様

2024年6月13日(木)

脱原発仙台市民会議 代表 篠原弘典・水戸部秀利

要望書

来たる東北電力株主総会において、仙台市が東北電力の株主として脱原発東北電力株主の
会提案の「原発に依存しない」株主提案議案に賛同し、女川原子力発電所の再稼働に反対す
ることを要望します。もし脱原発株主の会提案に賛成できない場合でも、女川原子力発電所
の再稼働を含む東北電力の提案には「保留」ないし「棄権」されることを要望します。

今回女川原子力発電所2号機が再稼働されると、事故を起こした福島原発と同じ沸騰水型
の原子炉が再稼働する初のケースとなります。そうでなくても女川原発は東日本大震災にて
多くの損傷を受けている危険な被災原発です。しかも原発再稼働の前提となる「住民の安全
を担保した避難計画」はいまだに示されていません。私どもは、女川原発2号機の再稼働に
断固反対します。

東北電力は今年9月再稼働し、10月営業運転すると発表しています。今回の株主総会が
「原発再稼働に反対する」最後のチャンスです。この機会をぜひ市民の生活と安全の確保に
活用いただきたいと思います。

1月1日能登半島地震が発生し、休止中の志賀原発も各種の損傷を起こしています。運転
中であれば重大事故を引き起こしかねない損傷でした。この能登半島地震を起こした内陸直
下型断層地震(能登半島地震の場合、揺れた断層の長さは150km)の評価(特に住民の避難計
画や屋内避難の在り方についての評価)はどうなっているのでしょうか。

女川原発敷地近くにも牡鹿半島から岩手県矢巾町に達する200kmもの長さの断層の存在
が指摘されています。日本海溝地震や牡鹿半島沖地震だけでなく、内陸直下型地震の危険性
をも含む牡鹿半島に立地する女川原発再稼働は許されるものではありません。

市民の生活と安全を脅かす女川原発再稼働に必ず反対されることを要望します。